

# 浦城にまつわる話

浦城は湖東平野一円を治めていた城でしたが1590年頃、<sup>ひやま あんどう</sup>檜山安東（現在、能代市郊外）と<sup>みなと あんどう</sup>湊安東（現在、秋田市土崎）との同族争い（湊騒動）の中、落城しました。

浦城の城主、三浦盛永は元々、檜山安東氏の家臣で、浦の郷（現在の八郎潟町から五城目町の一部）を治める代官として浦城の城主に任ぜられた人です。周囲には山内城（五城目町富津内）、馬場目城（五城目町馬場目）があり、2城とも同族の三浦氏の城ですが、浦城がそれらの城の中心的存在だったとされています。浦町（現在の浦大町、浦横町）が城下町です。

城の建築は450年前の室町時代末期のようです。城跡は高岳山の東側に連なる全長508mの細長い丘陵にあります。本丸の標高は175m。何重にも掘られた空堀があり、それぞれ第一の郭、第二の郭・・・と名付けられています。本丸の東西に小高い所があり、それぞれ東の鐘楼跡、西の鐘楼跡といわれています。本丸の北側に深い窪みがあり、井戸の跡とも石を掘った跡とも言われています。

城跡にはあちこちから丸石が発掘されます。敵に投げる投石だとか縄文時代の狩りに使った投石だとか様々な説が出ています。

城跡から南側を見ると田圃の中に木々が茂る社が見えます。御前柳神社です。落城

直前に城から落ち延びた奥方、<sup>おやなぎひめ</sup>小柳姫が出産したとされている柳の木があった場所で、現在、<sup>あんさん</sup>安産の神として祀られています。小池の<sup>さいとう じんのすけ やしろ</sup>斎藤甚之助氏が社を守っています。

浦城の菩提寺は、一日市にある清源寺と浦大町の常福院です。

落城の際、運良く難を逃れた後継ぎの三浦五郎義包は酒田の殿様に匿われ、その仲介により藩主秋田城之助（安東）から罪を許されます。父の領地を与えられますが浦城ではなく押切（一説には現在の八郎潟町中嶋付近）に平城を築くことになります。

ところが家臣の小和田甲斐が藩主秋田氏に「私の主君はあなたを殺そうとしている」と直訴したため、主君五郎が暗殺されるという事件が発生します。場所は天王町説と土崎説と説が分かれています。

暗殺後、小和田甲斐は功により押切城主に治まりますが、小和田親子は度重なる天変地異により狂死してしまいます。

驚いた藩主は三浦五郎の怨霊を慰めようと押切に若宮八幡神社を建立したという記録があります。

（以上、黒川三浦家代々記他より）

このように八郎潟町全域に関わりのある史跡ですから、みなさまの協力で大切に保存してきたい場所です。

1999年9月12日日曜日メビウス広報部児玉亮

